米国の大学におけるウェブサイトによる市民向け健康情報 の提供方法と内容

中山和弘¹、戸ヶ里泰典²、近藤佳代子³、宇城令¹、的場智子¹ (1:聖路加看大、2:東大·健康社会、3:東大·家族看護)

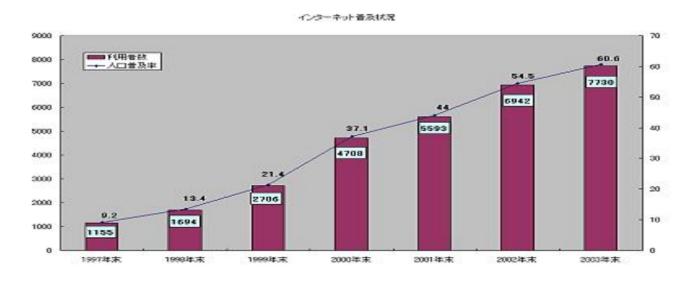
第13回日本健康教育学会(獨協医科大学、2004.6.5) 発表資料

研究の背景

- ヘルスプロモーション エビデンスを生み出す大学の社会貢献、地域 貢献!
- エビデンスを市民のエンパワーメントのために わかりやすい情報にして提供、普及させる必 要性
- ■最適なツールとしてのインターネットの利用 いつでも、どこでも、だれでも! 本当?デジタルデバイドは?

インターネット普及状況

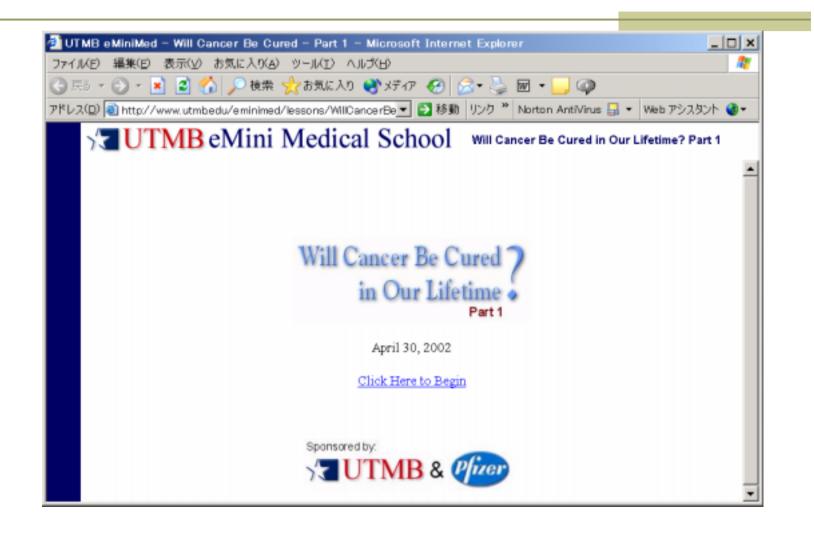
- 総務省「平成15年通信利用動向調査」
- 利用者7,730万人(PCは6,164万人)、普及率60.6%に
- うちブロードバンド(ADSL、光など)利用世帯47.8%
- 13~39歳90%以上、50代60%、60~64歳39%、65歳以上 15%と差があるが、全年代で利用増加、都市規模でも 町村部で6割近い世帯利用率、デバイド縮小傾向

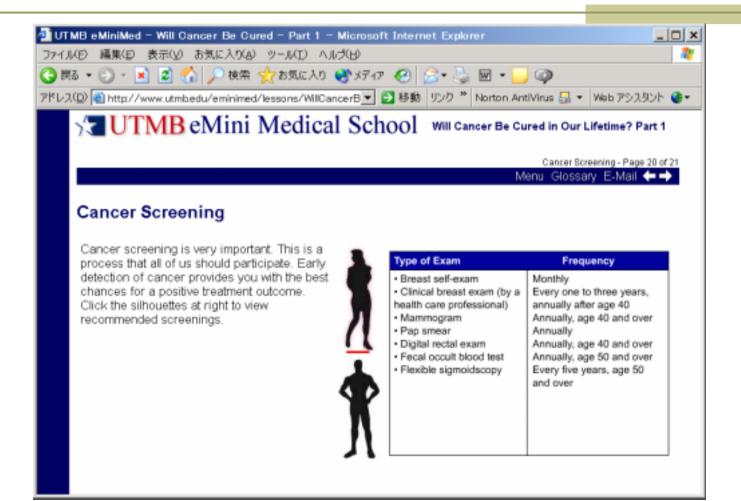


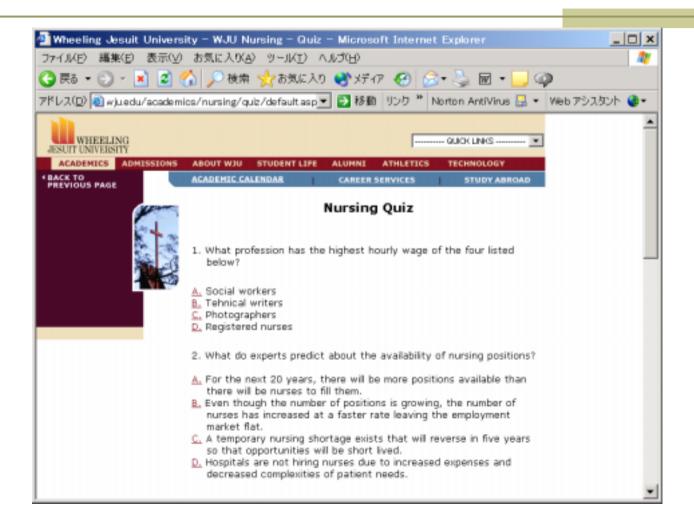
方法

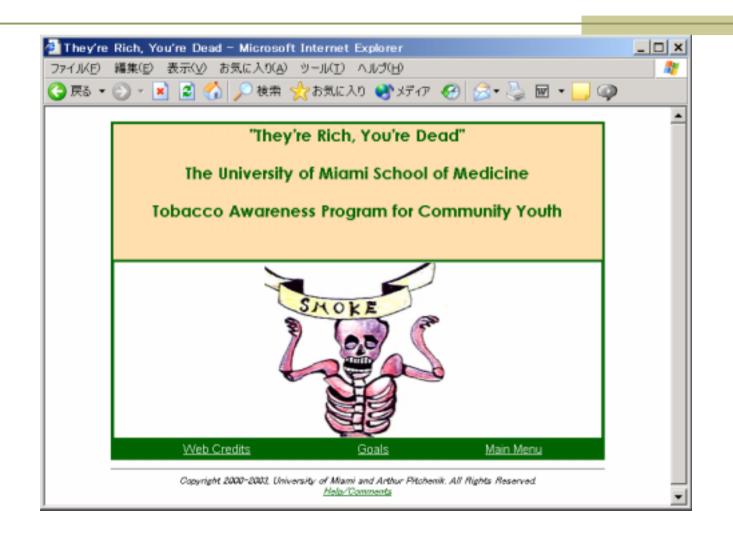
- ■国内事例はあまりに少なく、アメリカの事例に学ぶ
- ■調査対象: American Association of Colleges of Nursing (AACN)のサイトでリンクがある443校、看護学部以外、他の英語圏も追加作業中
- ■市民向け(が利用できる)コンテンツの抽出、分類、整理
 - e-Learning
 - ■リンク集、情報資源
 - ■健康のセルフチェック
 - ■コンサルテーション
 - ■教育・学習プログラム等の紹介、を軸に開始

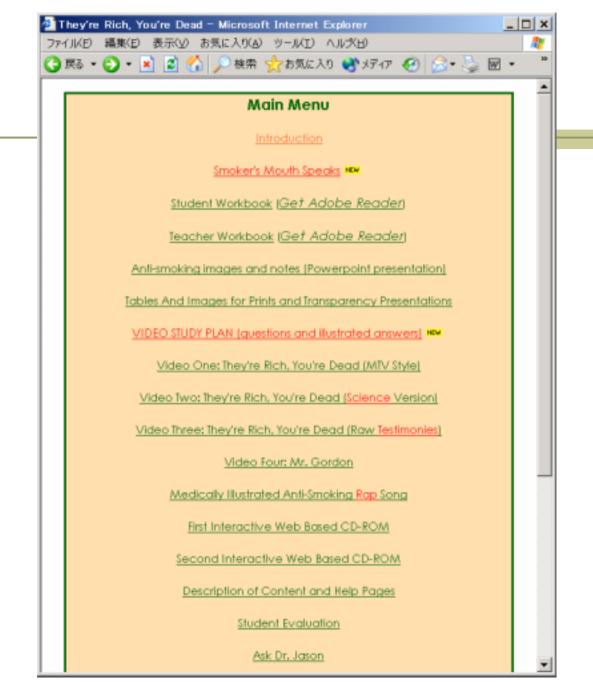
e-Learning





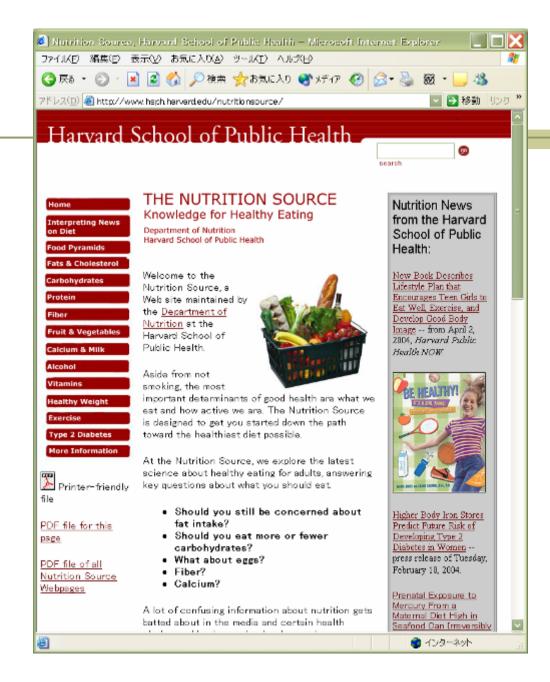


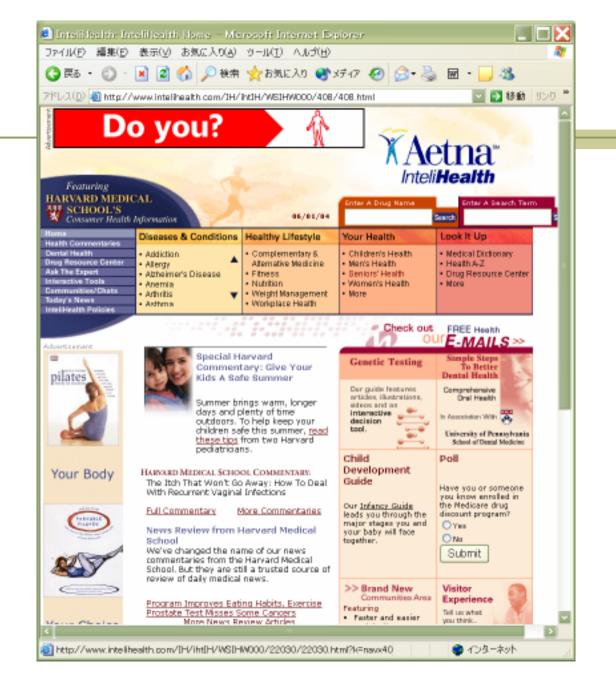




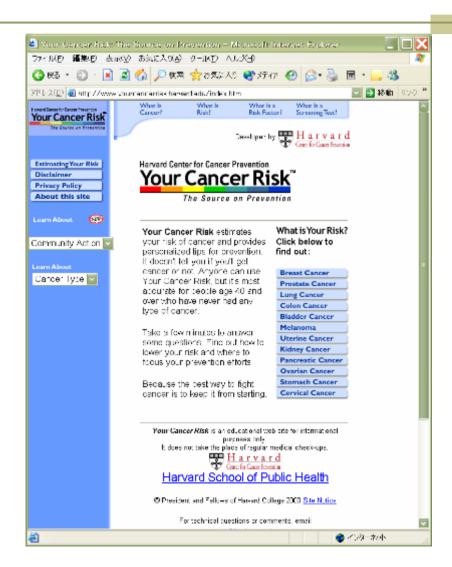
Health Information & Resources

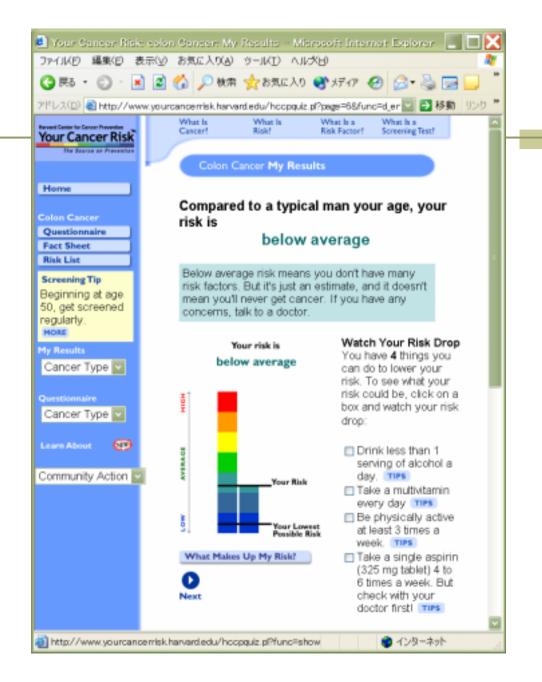


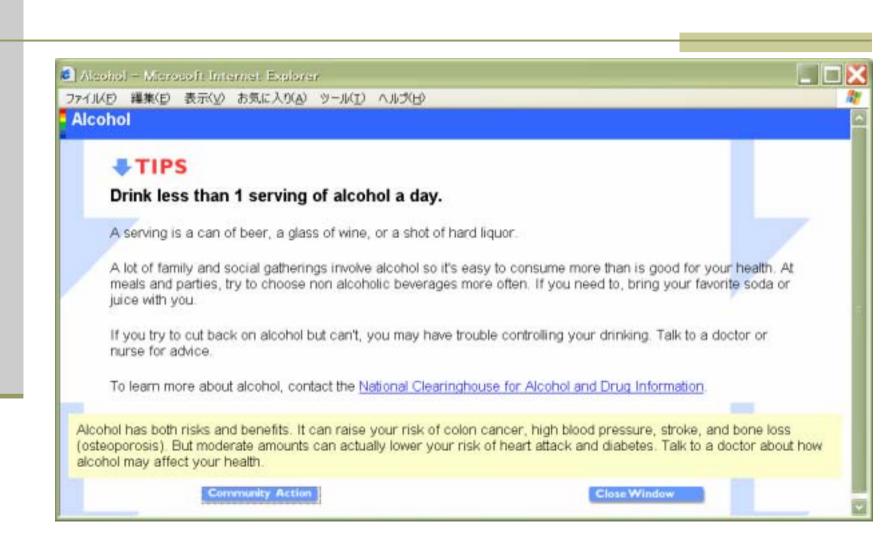


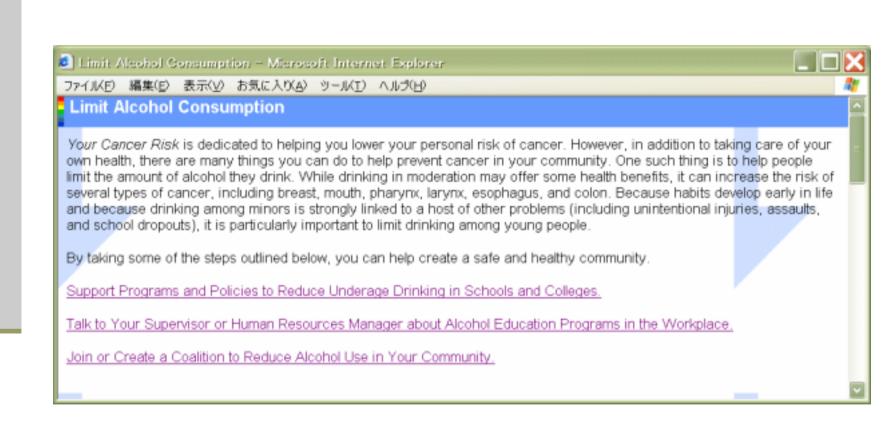


Health Check, Assessment, Tool

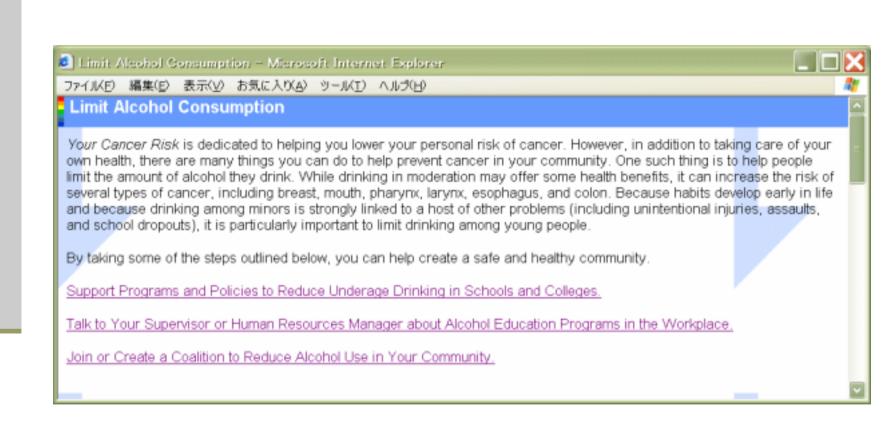












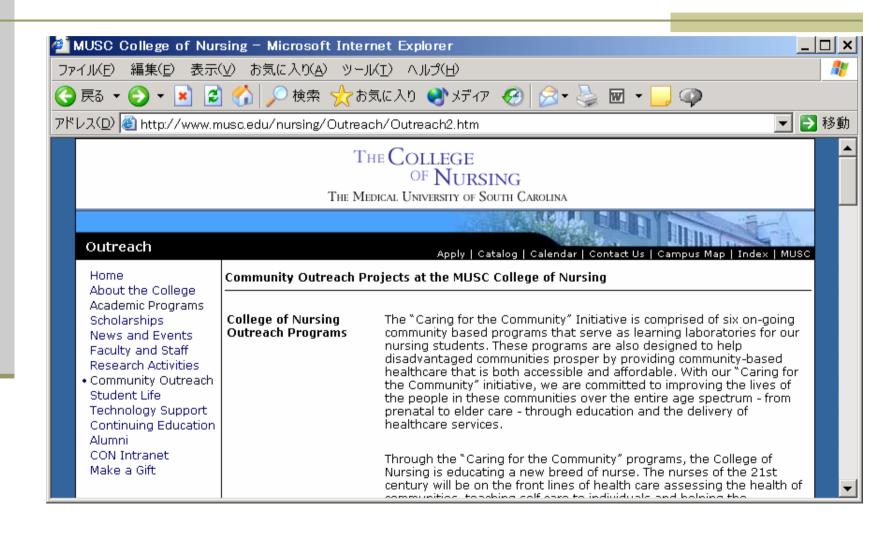
Consultation, Decision Aids

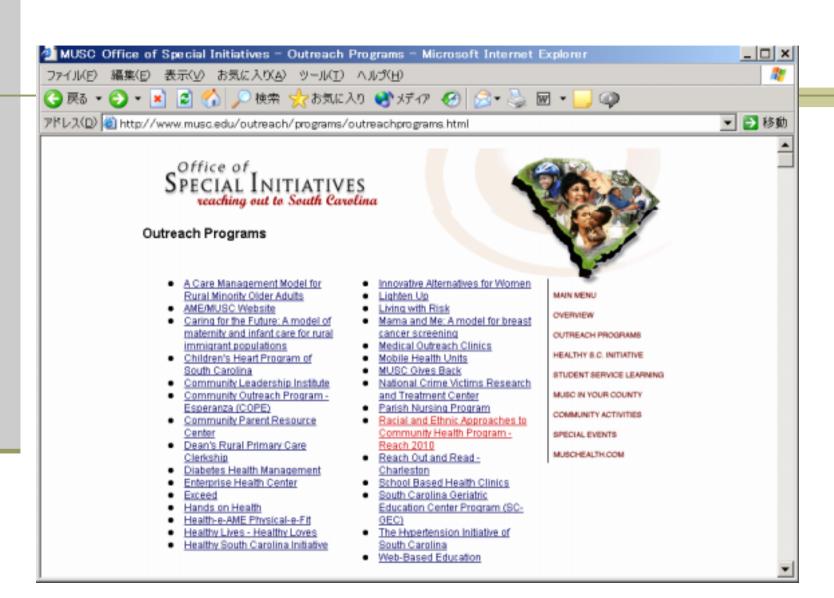


統合サイト

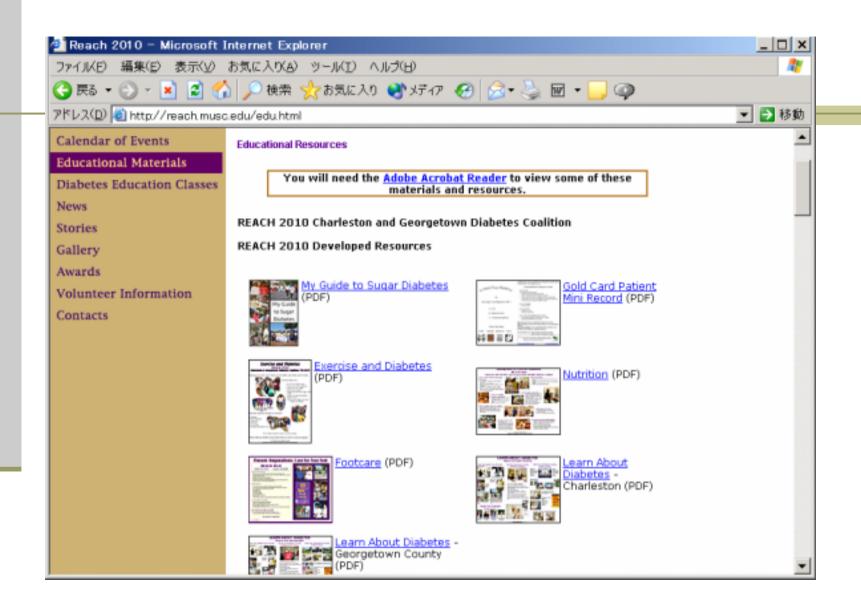


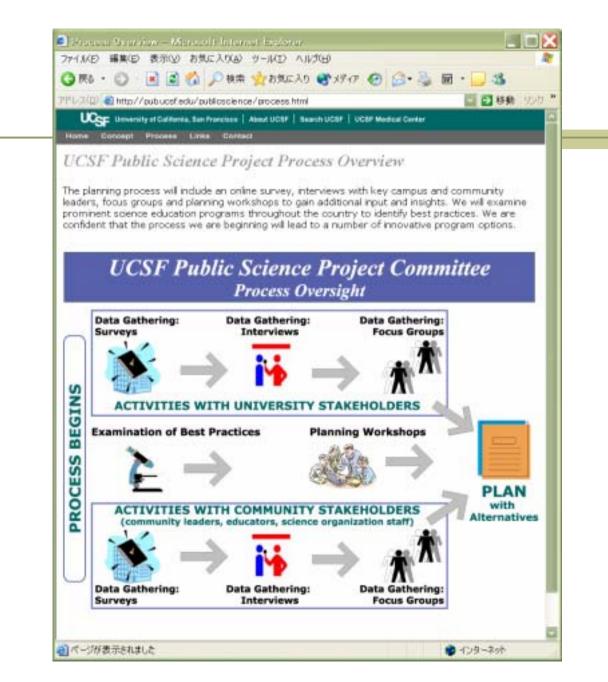
Community Outreach











まとめと今後の課題

- ■健康教育、ヘルスプロモーションの手段にウェブサイトが利用されていく可能性、大規模な州立・私立や、
- 各学部(医学、看護学、公衆衛生学、健康科学、健康 情報学、薬学など)に付属病院を含めた統合組織 (Health Science Centerなど)から情報提供している 場合や、産官学連携の場合に充実したコンテンツ
- コミュニティとの連携(Community Outreachなど):エビデンスの作成 普及 行動変容のすべてのプロセスへの市民参加へ
- 聖路加看護大学21世紀COEプログラム『市民主導型の健康生成をめざす看護形成拠点』で市民向けウェブサイト構築中、市民向けコンテンツのリンク集も